

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 8

『いのちへのまなざし』

校長 大矢 正 則

『お金に換算できる意味での役に立つか立たないかという判断が人の評価の基準となり、貧しい人、働くことのできない人は、人として当然の権利を行使することすら難しい社会が成立しています。』

これは、日本カトリック司教団が、国内外のすべての人々に向けて発信した『いのちへのまなざし』という文書の、はじめの方に書かれている現代社会に対する見方です。

この『いのちへのまなざし』を最初に司教団が出したのは2001年1月のことでした。

しかし、その年の9月には、9.11 アメリカ同時多発テロが発生し、10年後の2011年には、3.11 東日本大震災とそれに伴う福島第1原発の事故が発生しました。海外に目をやれば、排他的武装勢力の拡大によって起こった、中東・アジア地区の暴力・破壊の連鎖などがあり、『いのちへのまなざし』はそれらを踏まえ今年の3月に、増補新版へと改定されました。

ところで、いのちへのまなざしを考えると、いま、人類が直面しているいのちへの脅威を抜きにして考えるわけにはいきません。

現生人類（ホモ・サピエンス）が現れたのは約20万年前とされています。最初に発生した人類である猿人の出現は約700万年前ですから、人類の発生期の長さに占める現生人類の歴史は、まだ浅いといえます。

その浅い歴史の中で、現生人類は（20万年の歴史の中で見ると）つい最近、いくつかの革命を経験しました。

食物の栽培と動物の家畜化は、食糧に関する大きな革命でした。1万2000年前とされています。2500年前には、通貨の発明という価値の革命が起こりました。17世紀科学革命を経て資本主義が台頭しました。約200年前には、歴史の教科書に載っている一番新しい大きな革命である産業革命が起こりました。

1万年余りの間に現生人類は農業、価値、科学、産業の革命を経験したのですが、そもそも、なぜ現生人類がそれらを実現できたのでしょうか。私たちよりもずっと長く生き延びていたネアンデルタール人（教科書には約60万年前の出現となっていますが、200万年も存在したという説もあります）はなぜそれらを取り

こせなかったのか。それは、ホモ・サピエンスが、それまでの人類になかった、新しい思考と意思疎通の方法——現代風にいうと、認知能力とコミュニケーションスキル——を獲得したからであるといわれています（『サピエンス全史（上）』河出書房新社）。だからこそ、ホモ・サピエンスは、自分たちとほとんど脳の大きさは変わらず、しかも自分たちより大柄だったネアンデルタール人に代わって（前掲書によれば、最近では「交代説」はなく「交雑説」を表す証拠が発見されているという）この地球上に広がったのでしょうか。

ところで、人類の歴史を一変させた、その新しい思考と意思疎通の方法に最近劇的な変化が生じています。それは言うまでもなく、インターネットの普及です。

本来、意味の伴う思考と意思疎通は、間欠を伴いながらも同時並行的に行われ、それらを行う主体同士の関係性の中で主張され、互いに耳を傾け合い、修正されていくものでした。しかし、今日のネット社会においては、これまでに人類が経験したことのない数の言葉が発信され、それが拡散され、拡散の中で言葉の主体が見えなくなったり、主客が逆転したり、あるいは、スケープゴートが作られ、他から一斉に否定され攻撃の対象となります。『炎上』がそれです。そこでは思考と意思疎通という概念がもはや破壊されています。思考のあとのない意思、疎通を求めない意思の表示が、Wi-Fiや光通信を通して目の前の画面に現れ、多数派と異なる主張は、ときに、言説そのものではなく、その人の生きてきた変えようのない背景までもが攻撃され放題です。それはまさに差別であり、差別は最終的には、ジェノサイドに向かう恐ろしいものです。

差別によって攻撃されるのは、大抵が「お金に換算できる意味での役に立たない」（冒頭の引用参照）とされる側です。自分たちの払った税金を、「こんな人たち」のために使ってほしくないといった書き込みを、目にする機会があるのは悲しい現実です。

人は誰もがかけがえのない存在です。「こんな人」と呼ばれていい人は一人もいません。冒頭の引用に戻れば、『貧しい人、働くことのできない人』を含め、むしろその人たちを優先して、すべての存在者が「人として当然の権利を行使」できる社会を作り出す人、行使できる人。更には行使できない人に代わってアドボケイトできる人を、東星学園は育成したいのです。